

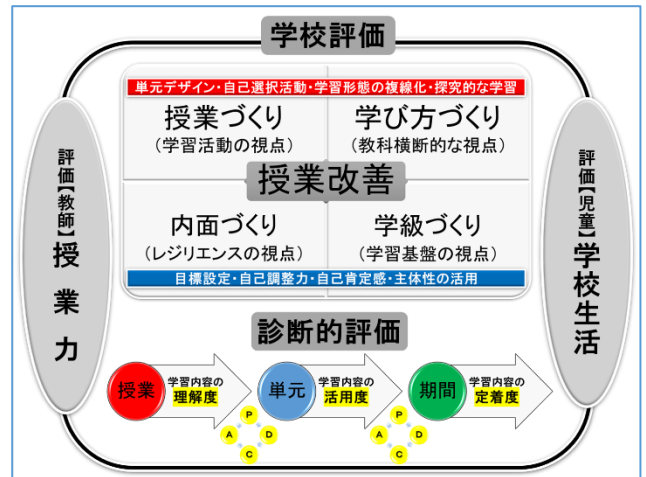
研究の概要

【研究主題】 子供と創る「学びのひとりだち」 ～主体的に学び続ける児童の育成～

「学びのひとりだち」とは、児童一人一人が「学びの主体」となり、「自律した学び」を展開することである。「学びのひとりだち」により、児童は「自らの目的や力に合わせ、自己の目指す学びを選択し、友達と共に学びを深めていく」。その中で、「自らの学び方のめあてをもち、学びの状況を自覚し、自己の学びを調整・修正しながら、自らの学びを確立していく」ことができる。

我々は、研究主題の具現化に向けて、授業改善を研究の核として、児童主体の「学習活動の展開の在り方」、児童個々の学びの成立に向けた「学び方指導・支援の在り方」等について実践を積み重ね、授業研究による授業力向上への取組を進めてきた。

【研究主題具現化に向けた構想】



1 授業づくり(学習活動の視点)

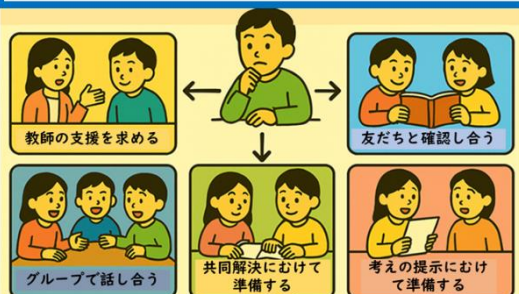
学習が、個別最適な学びと協働的な学びが一体化し、児童個々の主体性に培われた学びとなるように、以下の視点をもとに授業づくりを進める。

- (1) 「**単元ガイダンス**」による単元ゴールへの見通しと単元末の自己(児童)のイメージ化の促進
- (2) 「**家庭学習**」と関連を図った学習過程の工夫
- (3) 「**学び方の選択**」を生かした個別最適な学びを生む課題解決時における指導・支援の展開
- (4) 「**学び直し**」のある学習のまとめと振り返りを促進する指導・支援の展開

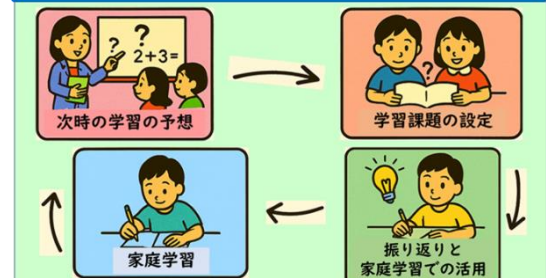
単元ガイダンス
単元の学習を見通し、どんな力を付けるのかどう学びたいのかを捉える



学び方の選択
学習状況や学習の目的にあわせて学び方を選び主体性に培われた自力解決を進める



家庭学習
授業内容との関連・連動を図りながら課題解決への意識を高める



学び直し
教師のコーディネートにより児童が自らの学びを再構築する



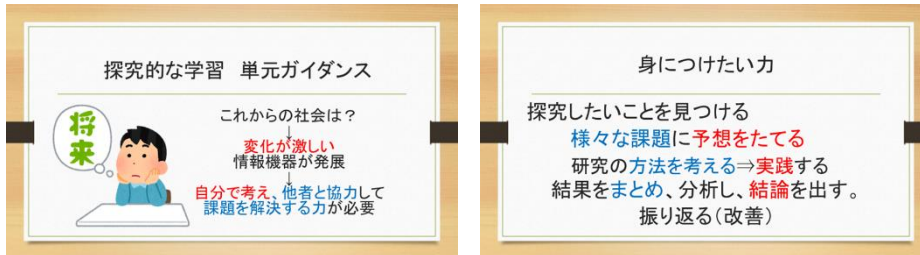
研究の概要

2 学び方づくり(教科等横断的な視点)

探究的な学習を通じた児童個々の主体的な学びを創出する総合的な学習の時間により、主体的に課題解決を図る学び方の定着を図る。

- (1) 児童個々の「探究の種」探しによる、学習計画づくり
- (2) 情報収集の方法を選択し、友達との協働的な整理・分析・考察
- (3) 「学びの基礎基本」の活用を核とした他教科との関連

【総合的な学習の時間に係るガイダンス】



【探究的な学びの過程】



3 学級づくり(学習基盤の視点)

人間関係調整に係るプログラムを取り入れ、学級経営の充実を図り、学びの基盤をつくる。

- (1) アンケート結果を活かした児童の自発的・自治的活動の促進
- (2) 自己肯定感、自己有用感の向上への指導・支援の充実
- (3) レジリエンスの視点を活かした道徳科の授業づくり

【学級の基盤づくりの方途】



4 内面づくり(レジリエンスの視点)

「心のもちよう」を前向きにし、学びに向かうしっかりとした土台をつくるための児童個々のレジリエンスの向上を図る。

- (1) 実態把握
レジリエンスアンケートの実施と家庭との連携
- (2) 人間関係調整力を高める取組
パワフルキッズタイムの効果的な実施
- (3) レジリエンスを高める「目標設定」と「振り返り」及び教師の「評価」の工夫

【レジリエンスの7つの視点】

